

オンラインの本当の効用

オンライン会議はもはや、日常になった。国内のみならず、世界中といつでもどこでもつながり、表情を見ながら言葉を交わせる。出張旅費はかからず、効率的でコロナ禍が収束しても、廃れていくことはもうないだろう。だがオンラインの本当の効用は、別にある。そう実感する出来事を先日、体験した。

お笑いコンビ「たんぽぽ」の川村エミコさんが「書くことで自分を見つめる」と題し、福岡県内の高校2校の生徒359人に向けて、東京のスタジオからオンラインで講演した。一ツ橋文芸教育振興会と西日本新聞社が「高校生のための文化講演会」と銘打ち、主催したもので、生徒たちは学級ごとに大型モニターで受講した。川村さんは昨秋、初のエッセー集「わたしもかわいく生まれたかったな」を刊行しており、本にも記した幼少の頃のつらい体験を、いかに乗り越えたか面白おかしく、時には涙交じりで語り、多感な高校生たちを勇気づけた。

その講演前のことである。私は福岡市内の新聞社からオンラインで主催者としてあいさつを述べた。「私も読みました。何度も泣きそうになって、でも読み終えた後は『自分も頑張ろう』と力をもらいました。川村さんのひたむきな生き方、ピュアな心にとっても感動しました」と話すと、「ふっ、ふっ、ふっ」と恥ずかしそうに笑う声がイヤホン越しに聞こえてきた。

川村さんのマイクがミュートになっておらず、私が本を読んでいたことを喜んでくれているのだと直感した。後で東京のスタジオで講演に立ち会った同僚に聞くと、川村さんは体を大きく揺らしながら笑顔で「読んでくれたんだあ」と口を動かしたという。私は、川村さんと心が通じた気がした。そして、思った。

ぜひ、会ってみたい。

オンラインで話して心が通じれば、直接会いたくなる。それこそがオンラインの本当の効用だ。バーチャルな世界が広がれば広がるほど、リアルな体験の素晴らしさを知る。コロナ禍が収束すればインバウンド（訪日外国人客）はきっと日本に押し寄せる。今は準備の時だ。

西日本新聞社 メディアビジネス局長 一瀬文秀



福岡県内の高校生にオンラインで講演する川村エミコさん